

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:50 ~ 10:35 | 会場 (14号館146B)

住居

座長：都築 和代 (関西大学)

9:50 ~ 10:05

[2N-04] 高齢者への省エネに関する住教育の実践と教育方法の有効性

○飯野 由香利¹ (1. 新潟大)

10:05 ~ 10:20

[2N-05] フローリングの評価と選択を取り入れた高校家庭科住生活領域の授業提案I

フローリングの機能性評価試験

○東原 貴志¹、佐藤 ゆかり¹、山本 悠哉¹、悦内 駿太¹、中野 千栄子²、佐藤 正直³、村田 功二⁴、児嶋 美穂⁵、井上 真理子⁶、保坂 路人⁷、石黒 成紀⁷、伊藤 圭⁷ (1. 上教大、2. 柏崎翔洋中等、3. 北教大、4. 京大、5. 森林総研、6. 森林総研多摩、7. 大建工業)

10:20 ~ 10:35

[2N-06] フローリングの評価と選択を取り入れた高校家庭科住生活領域の授業提案II

フローリングの選択に必要な情報収集

○佐藤 ゆかり¹、東原 貴志¹、悦内 駿太¹、山本 悠哉¹、中野 千栄子²、佐藤 正直³、村田 功二⁴、児嶋 美穂⁵、井上 真理子⁶、保坂 路人⁷、石黒 成紀⁷、伊藤 圭⁷ (1. 上教大、2. 柏崎翔洋中等、3. 北教大、4. 京大、5. 森林総研、6. 森林総研多摩、7. 大建工業)

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:50 ~ 10:35 | N会場 (14号館146B)

住居

座長：都築 和代 (関西大学)

9:50 ~ 10:05

[2N-04] 高齢者への省エネに関する住教育の実践と教育方法の有効性

○飯野 由香利¹ (1. 新潟大)

キーワード：省エネ、高齢者、住教育

背景と目的 高齢者は住宅内で長時間過ごすことが多いことからエネルギー使用量が多い傾向がある。本研究の目的は、高齢者を対象に省エネルギーに関する住教育を考案して実践し、有効な住教育方法を提案することである。方法 2018年に新潟市高齢者A大学で省エネに関する講義を25人を対象に行った。さらにアンケート調査を講義の約1か月前・直後・約1か月後に実施した。講義では、高齢化とエネルギー問題の今後の推移と高齢者による省エネ行動を実践することの重要性及び具体的な省エネ手法を説明した。教育方法として、節約金額が最も高い省エネ手法を選択するクイズと受講生の現時点と将来の省エネ行動を実践する場合の節約金額の試算を取り入れた。結論 1)講義を理解できた側の割合は90%であった。理解できた内容として「省エネが必要な理由」(89%)や「エアコンと扇風機の併用」(68%)が、役立つ内容として「高齢者と省エネとの関係性」(50%)が挙げられた。2)講義後に家庭で実践した側の割合は60%であった。実践方法は講義後の冬季に適用できる「エアコン(暖房)の省エネ」(58%)と「エアコンと扇風機の併用」(50%)が高く、使用頻度の高いテレビ(50%)、冷蔵庫(42%)や照明(33%)の省エネ方法が挙げられた。3)78%の受講生がクイズ形式の講義の有効性を実感し、「省エネへの興味・関心」(46%)や「節約意識」(33%)の効果を挙げた。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:50 ~ 10:35 | N会場 (14号館146B)

住居

座長：都築 和代 (関西大学)

10:05 ~ 10:20

[2N-05] フローリングの評価と選択を取り入れた高校家庭科住生活領域の授業提案

|

フローリングの機能性評価試験

○東原 貴志¹、佐藤 ゆかり¹、山本 悠哉¹、悦内 駿太¹、中野 千栄子²、佐藤 正直³、村田 功二⁴、児嶋 美穂⁵、井上 真理子⁶、保坂 路人⁷、石黒 成紀⁷、伊藤 圭⁷ (1. 上教大、2. 柏崎翔洋中等、3. 北教大、4. 京大、5. 森林総研、6. 森林総研多摩、7. 大建工業)

キーワード：高等学校、家庭基礎、住生活領域、フローリング、授業実践、機能性評価

目的

家庭科住生活領域では、実践的・体験的学習活動のあり様やその充実に関する課題が指摘されており、効果的な授業開発が求められる。特に高校「家庭基礎」では、標準履修2単位での授業展開が課題であり、それは住居の機能性や適切な住居の計画・管理等の学習でも同様である。本研究では、実践的・体験的学習活動を組み込んだ住生活領域と消費生活領域の横断的授業を構想・実践した。生徒の関心が高い、生活居室の内装である木質フローリングを取り上げた。使用される木材の直観的評価からはじまり、分析的評価を行った後、総合的に評価するものであった。本研究では、フローリングに要求される性能を分析するための実験的手法を開発し、授業実践した。

方法

N県立K中等教育学校5年生(2クラス計50名)を対象とし、家庭基礎(55分間)の授業を行った。供試材料として、オーク材の無垢フローリングと複合フローリング(D社製、表面WPC処理有と無の2種類)を使用した。JIS試験等を簡略化した機能性試験として、鉛筆硬度試験、墨汁防汚試験および醤油防汚試験、鉄球落下試験、鋼球移動試験の5種類を行った。その後、デジタル顕微鏡でフローリングの断面構造の観察を行い、機能性試験の結果との関係について考察させた。

結果

生徒は機能性試験の結果と断面構造の観察により、表面塗装の有無が防汚性に関係すること、WPC処理の有無が耐傷性に影響を及ぼすことなどを理解していたと考えられた。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:50 ~ 10:35 | N会場 (14号館146B)

住居

座長：都築 和代 (関西大学)

10:20 ~ 10:35

**[2N-06] フローリングの評価と選択を取り入れた高校家庭科住生活領域の授業提案
II****フローリングの選択に必要な情報収集**

○佐藤 ゆかり¹、東原 貴志¹、悦内 駿太¹、山本 悠哉¹、中野 千栄子²、佐藤 正直³、村田 功二⁴、児嶋 美穂⁵、井上 真理子⁶、保坂 路人⁷、石黒 成紀⁷、伊藤 圭⁷ (1. 上教大、2. 柏崎翔洋中等、3. 北教大、4. 京大、5. 森林総研、6. 森林総研多摩、7. 大建工業)

キーワード：高等学校、家庭基礎、フローリング、授業実践、VR、生活情報

目的 住生活領域の指導を困難と考える教師の多さが指摘されている。授業時間数削減の中で、住生活領域の内容をどのように理解させるか、そのための実践的・体験的学習活動をどのように行うか等が課題としてあげられている。本研究では生活全般を扱う家庭科の総合性と実践性という性格をふまえて、住生活と消費生活の領域横断的授業を構想・実践した。授業は実践的・体験的学習活動を組み込んだものであった。導入時のフローリングの直観的評価で、生徒が重視した色や木目が与える印象に関する生活情報（以下、情報）を、消費者が入手可能である4つの媒体で提供した。生徒はそこから情報を収集し、分析的評価を行い、前時の性能評価もふまえて総合的評価を行った。本報告では4つの媒体から生徒はどのような情報を収集し、それらをどのようにとらえたかを検討した。

方法 N県立K中等教育学校5年生(2クラス計50名)を対象に、家庭基礎(55分間)の授業として行った。フローリングの色や木目に関する情報を紙(カタログ)、実物(カットサンプル)、空間シミュレーション、VRゴーグルの4つの方法にて提供し、各々から収集可能な情報について考察させた後、フローリングの総合的な評価をさせた。

結果 生徒はVRゴーグルから空間の広がりを理解するとともに、媒体により得られる情報には違いがあること、複数媒体から情報を収集し消費行動を行うことの必要性等を理解していたと考えられた。